

インタビュー

リモートロボティクス(株)
代表取締役社長

田中 宏和氏

(株)（東京都港区）は、ロボットの遠隔操作プラットフォームサービスを提供するスタートアップ企業。ソニーグループ（株）と川崎重工業（株）の合弁会社として、2002年12月に設立され、リモートによる人とロボットの新しい働き方を実現する「RemoteLink」（リモリンク）が注目を集めている。代表取締役社長の田中宏氏に伺った。



このアプリでは動作実行ボタン1回押す度に10mm動くよう作成しています

田中 近年、製造現場を中心にロボットシステムの導入が拡大しているが、作業内容によって完全自動化に苦慮されている方やシステムの高額化に悩まれている方などもいる方なども増えている。そこで当社はリモートによる人とロボットの役割分担という新しい選択肢を提案

ロボットの自
律動作をベ
スにしなが
ら、人がリモート環境か
ら指示を出す「人の判断」
を付帯できる。人の判断
力を提供することで、作
業内容の変動がある領域
でもロボットを活用で
き、ロボットの汎用性を
高められる。

— Remolink
について。
田中 業務設定、アサ
イン、ロボットの遠隔操
作といったリモートワー
クに関する各種機能を備
えており、Remolink

のロボットを遠隔対応することもでき、高い技術を有する希少人材の活用などにも貢献する。Re-molinkは23年7月から本格的な提供を開始して以降、多くの引き合いをいたしており、24年から複数の企業で本格利用が始まる予定だ。

—取り組みが進んでいる分野は。

田中 ロボットシステムをすでに活用されてい�製造業の方を中心、

溶かした高温の液体中に発生する酸化物を棒状の工具でからめ取る(作業)での活用検討も進んでいた。ノロ搔きは高温環境下での作業になるため自動化ニーズが高まっているが、ノロは不定形かつ発生する場所も定まらないため、一般的なロボットによる自動化が難しい。そこで当社は、パートナー企業と連携し、ロボット、画像認識、Remo-linkなどを活用して

ーとの通信を中継しリモート化するためのソリューション、遠隔アプリをノードで構築できるアプリビルダーなどで構成され、ユーチャー企業の技術者、ロボットシステムエンジニアーやデータ（SIR）、遠隔ロボットシステムの構築に関心がある企業などが、RemoLinkに関するシステムやツールを開発できる。企業間連携につ

おれ、そつした方
はRemolink Partners
企業を通じてリモート
ボットシステムの構築
保守・運用などを支援
している。
——直近の取り組み
は。

ており、中・長期的に
海外展開も視野に入れ
作による新しいワーク
スタイルや新しいロボッ
クの活用法を提案しなが
、「事業者やワーカーが
考える課題を解決し、当
のベースである「す
ての人々が社会参加で
るリモート社会の実
現」を目指していく。

人とロボの新しい働き方を実現

導入したロボットシステムに対し、当社が提供する開発ツールを組み込むことで、クラウドサービス「RemoLink」経由でロボットの遠隔操作を可能にするもので、

RemoLinkにはロボットシステムの状況に応じ、ワーカーへ作業のタスクを通知する機能などもあり、常に状況を監視する必要がないため、ワーカー1人が複数の

AI検査システムにおいて「判定不可」というリンクが出たときに、遠隔で人が良否判断を行うといったケースでも活用が検討されている。変わったところでは、ノロ搔き作業（鋳造に使う材料を

alink Builder」（リンク・ビルダー）というサービスを提供している。ロボットシステムの制御PCに組み込むことで、ソフトウェア開発キット、ロボットシステムなどを、RemoLinkサービス

対象に、現在7社に参加していただきたい方には、Remoinkの本格的な普及・拡大を目指す年となる。そのなかでパートナー網をしっかりと構築していくながら、サービスをより充実させていきたい。

A black and white portrait of a man with dark hair, smiling broadly. He is wearing a dark, collared shirt. The background is slightly blurred, showing what appears to be an indoor setting with light-colored walls.

るロボットについても、既設・新設を問わず、様々な機種・システムに接続できる。ロボットシステムのコピーニング・復旧する取り組みや、導入するロボットシステムの一部作業の遠隔モニタリングなど、様々な取り組みが進んでいる。そのほか、ロボットを活用した

遠隔地から画面に表示されているノロを選択する。ただし、ロボットがノモシスをかいめ取るがモシスムを実現している。

田中 当社の事業内容に共感いただき、RemoLinkの取り組みに伴走していただける企業を「Remolink Partners」として連携している。口ボットメーカー、SIE、設備メーカーなどをつとめ、様々な事業検証を行っており、24年度を目指しロボットの遠隔操作を担当する人材と企業とのつなぐマッチングサービスの提供を目指す。

田中 現在、想定以上——24年の方向性を。

田中 当社の事業内容に共感いただき、Remo-linkの取り組みに伴走していただける企業を「Remolink Partners」として連携していく。ロボットメーカー、Sier、設備メーカーなどを対象に、現在7社に参加しているだけでおり、新たに参加したいといったお話を非常に多くいただいている。Remolinkのお引き合いをいたぐらには自動化に関するノウハウがない方も

た。様々な事業検証を行っており、24年度を目標にロボットの遠隔操作を担当する人材と企業とをつなぐ、マッチングサービスの提供を目指す。

— 24年の方向性を。

田中 現在想定以上に引き合いをいただいており、24年はRemotelineの本格的な普及・拡大を目指す年となる。そのなかで、パートナー網をしっかりと構築していくながら、サービスをより充実させていきたい。ウェビナーなども定期的に開催する予定であり、当社の取り組みにご関心のある方はぜひお声がけいただければと思う。また、欧州やアジアの企業などからも関心をいただき、中・長期的に見ており、海外展開も視野に入れていいく。

そしてロボットの遠隔操作による新しいワークスタイルや新しいロボットの活用法を提案しながら、事業者やワーカーが抱える課題を解決し、当社のペーパスである「すべての人々が社会参加できるリモート社会の実現」を目指していく。

(聞き手・副編集長 浮島哲志)